

木曽の優良子牛生産パワーアップ・プロジェクト事業

取組に至る背景・事業の目的

木曽ブランドの一つである「木曽牛」（和牛肥育素牛）について、近年生産農家の高齢化や飼料の高騰などにより、生産力（飼育頭数）の維持が困難となっている。

そこで、生産農家への最新情報提供や先進地視察、経営支援等の実施による特色ある木曽牛の生産力のパワーアップを目的として、木曽牛ブランド力を分析したマーケティングにより、ブランド力の向上に取組んだ。

事業内容

- 先進的生産技術の取得
 - ・口蹄疫防疫研修会の開催、飼育管理研修会の開催
 - ・優良生産研修会の実施
- 経営支援の実施
 - ・畜産経営検討会の開催（5件）
- 低コスト和牛生産の推進
 - ・飼料稲活用モデルの実証、遊休地放牧モデルの実証
- 木曽牛ブランド力のアップ
 - ・ブランド化現地勉強会、商品化研究会、木曽牛のぼり旗 150 本作成
 - ・記念誌「木曽牛の歩み」発行（300部）



【イベント会場でのPR風景】

事業効果

- 木曽牛の生産面での生産技術の課題の明確化と対応についての生産者研修会等を行ったことで、課題の共有と地域全体の生産技術向上に向けた意識向上を図ることができた。また「木曽牛の歩み」を発行したことで、地域における和牛生産の歴史と、生産技術やブランドイメージの継承と理解のための基礎づくりができた。
- 木曽牛を活用した地域振興を進めるため、直売所や加工施設、旅館などとの連携による商品化と、その商品等のPRを行い、木曽牛ブランド化をスタートすることができた。また、平成22年12月24日には「木曽牛」の登録商標出願が認定され、木曽牛発信のインセンティブとなっている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 生産体制の強化に向け取り組みを始めようとした矢先に宮崎県で口蹄疫が大発生し、生産力の強化の一環で急遽、口蹄疫の防疫対策に取組む必要が生じたこと。
- 子牛の産地であるが、木曽牛として地域内での牛肉利用は皆無といえる状況の中、直売所や加工施設の皆さんに協力をいただきゼロからの商品開発に取り組んだこと。
- 産地の基礎である子牛の生産力の向上と「木曽牛」ブランド確立を両輪に据えながらも、木曽牛の利用者である「実需者」のニーズに即した牛肉の安定供給体制の構築を求められている。

【選定のポイント】

木曽牛のブランド力アップへ向けた商品化やPR活動等の取組により、ブランド力アップに大きく貢献したことが評価できる。今後も関係者が連携して継続することで、更に木曽牛の生産力維持・向上につながることを期待できる。

| | | | | | | | |
|--|--|-------|-------|-----|------------|------|------------|
| 団体名 木曽優良子牛生産パワーアップ協議会（木曽町） 連絡先 電話 0264-22-2128(木曽農協農業生活部畜産課) ホームページ http://www.pref.nagano.jp/xtihou/kiso/intro/nousei/kisogyuhome/kisogyutoppu.htm メールアドレス chikus02@kis.nn-ja.or.jp | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">事業タイプ</td> <td style="padding: 2px;">ソフト事業</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">事業費</td> <td style="padding: 2px;">1,997,083円</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">支援金額</td> <td style="padding: 2px;">1,997,000円</td> </tr> </table> | 事業タイプ | ソフト事業 | 事業費 | 1,997,083円 | 支援金額 | 1,997,000円 |
| 事業タイプ | ソフト事業 | | | | | | |
| 事業費 | 1,997,083円 | | | | | | |
| 支援金額 | 1,997,000円 | | | | | | |